

大正14(1925)年に始まった日本のラジオドラマは、戦時中の統制で一時は壊滅状態に陥りましたが、終戦と同時にGHQの管理下で再開され、新たな近代的演出システムを取り入れた番組が作られました。さらに昭和27(1952)年には占領軍も引き上げたため、そこから、戦後のラジオドラマの名作が次々と制作されるようになりました。

その時代にシナリオライターとして若い才能を輝かせたのが、小樽出身の石山透(昭和2・1927～昭和60・1985)と山中恒(昭和6・1931～令和8・2026)です。石山は昭和27年にNHK札幌放送局の専属作家となり、34年に東京のNHKへ移籍。主に昭和30年代から40年代にかけ、子供向けドラマ・民話劇・ミュージカルなどの多彩なジャンルでリスナーを魅了しました。一方、山中がこの世界に関わったのは昭和35年頃。NHKや民間放送で、主に小学生や就学前児童を対象とした番組を手がけました。特にNHKラジオ第一放送の「お話でてこい」では、昭和30年代半ばから50年代末までの長きにわたり、主要執筆陣の一人として活躍しました。このラジオ時代の豊富な経験が、後に彼らの、少年少女向けテレビドラマやテレビ人形劇での大ブレイクにつながっていきます。

この展覧会では、石山透と山中恒が所持していた当時のラジオドラマ台本を展示し、合わせて、日本のラジオドラマの歴史やラジオ収録の現場の様子などをご紹介します。ラジオ番組がとれほど聴く人の想像力をかきたて、少年少女たちを物語の世界にいざなっていたか、ぜひ会場で感じてください!

【主な展示資料】

- ・石山透・山中恒ラジオドラマ台本
- ・石山透・山中恒写真および関連資料
- ・ラジオドラマの歴史年表
- ・ラジオドラマの歴史年表
- ・戦前・戦後のラジオドラマトピック
- ・ラジオドラマ収録ブースの様子
- ・ラジオのある日本の家庭 戦後期



石山 透 劇団「感覚座」時代 昭和24年頃

■山中恒追悼記念講演

「模範的軍国少年・山中恒」について

講師：渡辺大助氏(FMおたるパーソナリティ)

2026年12月6日(日) 14時～15時30分

■少年少女ラジオドラマの世界展 特別講座

戦後ラジオで大活躍! 石山透と山中恒

講師：亀井志乃(市立小樽文学館 館長)

2026年12月13日(日) 14時～15時30分

会場：市立小樽文学館1F研修室 聴講無料

定員：各回40名

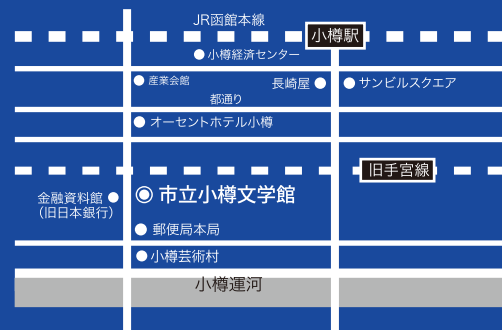
申し込み・問い合わせ

市立小樽文学館 0134-32-2388

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1-9-5

tel.fax.0134-32-2388



山中 恒 仕事場にて 昭和38年